

2025年12月  
(前期比季節調整値版)

## 第182回 中小企業景況調査報告書 (2025年10-12月期) 〈製造業編〉

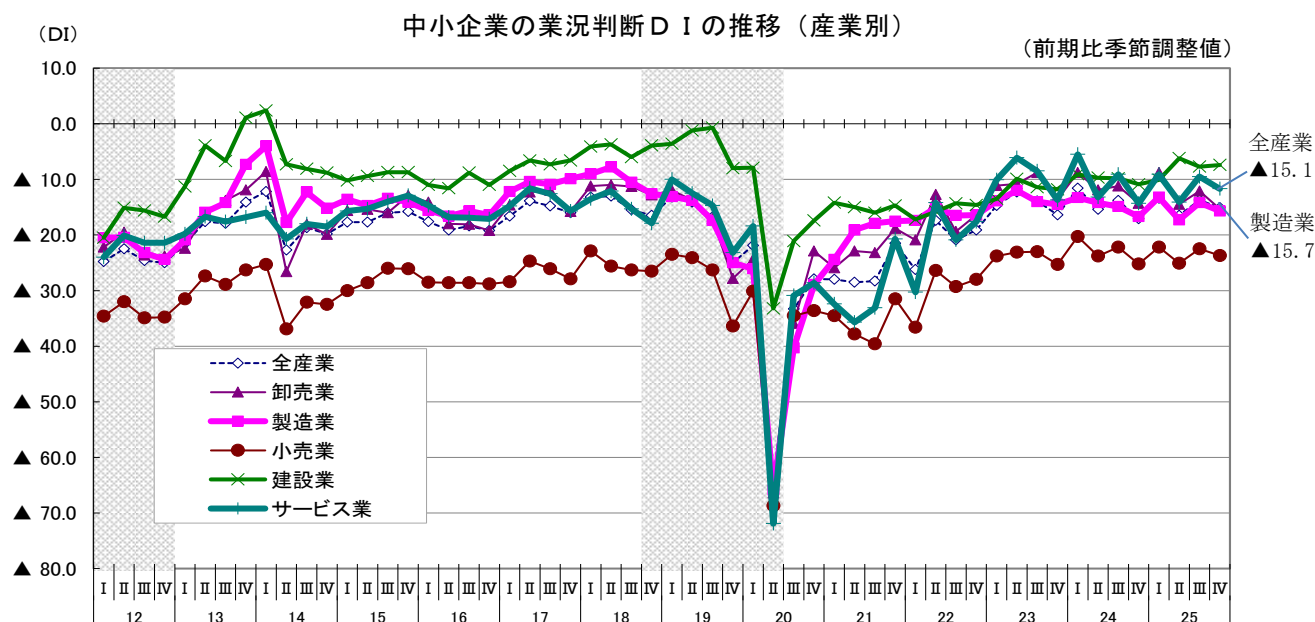
※DIとは…

「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課  
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル  
E-mail: chosa@smrj.go.jp  
[https://www.smrj.go.jp/research\\_case/survey/index.html](https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html)

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。

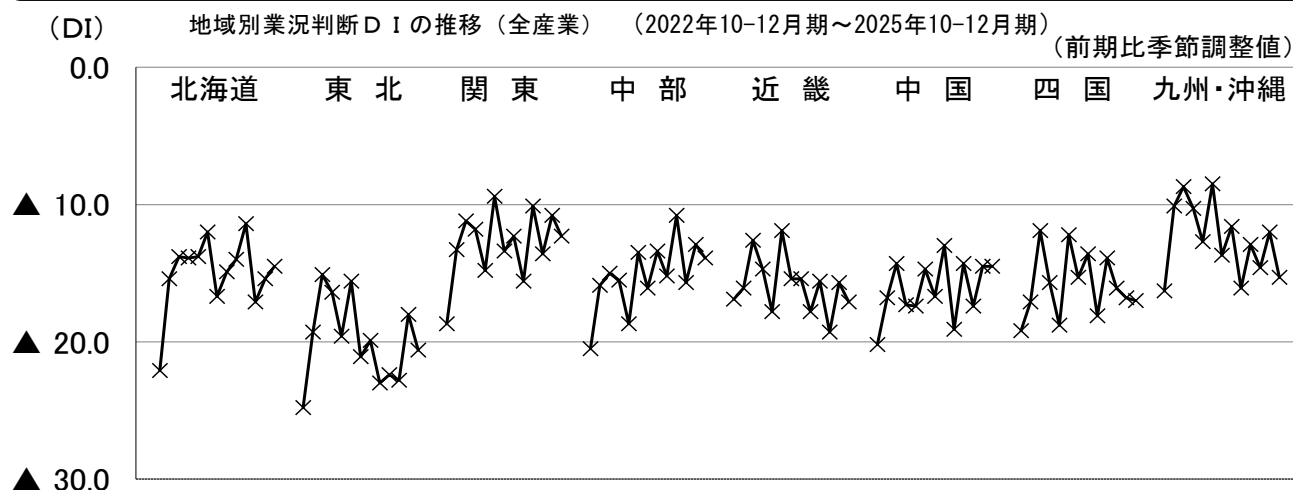
前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。(▲13.7→▲15.1)



### 〈地域の業況〉

※網掛け部分は景気後退期

北海道でマイナス幅が縮小し、中国で横ばい、九州・沖縄、東北、関東、近畿、中部、四国でマイナス幅が拡大した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

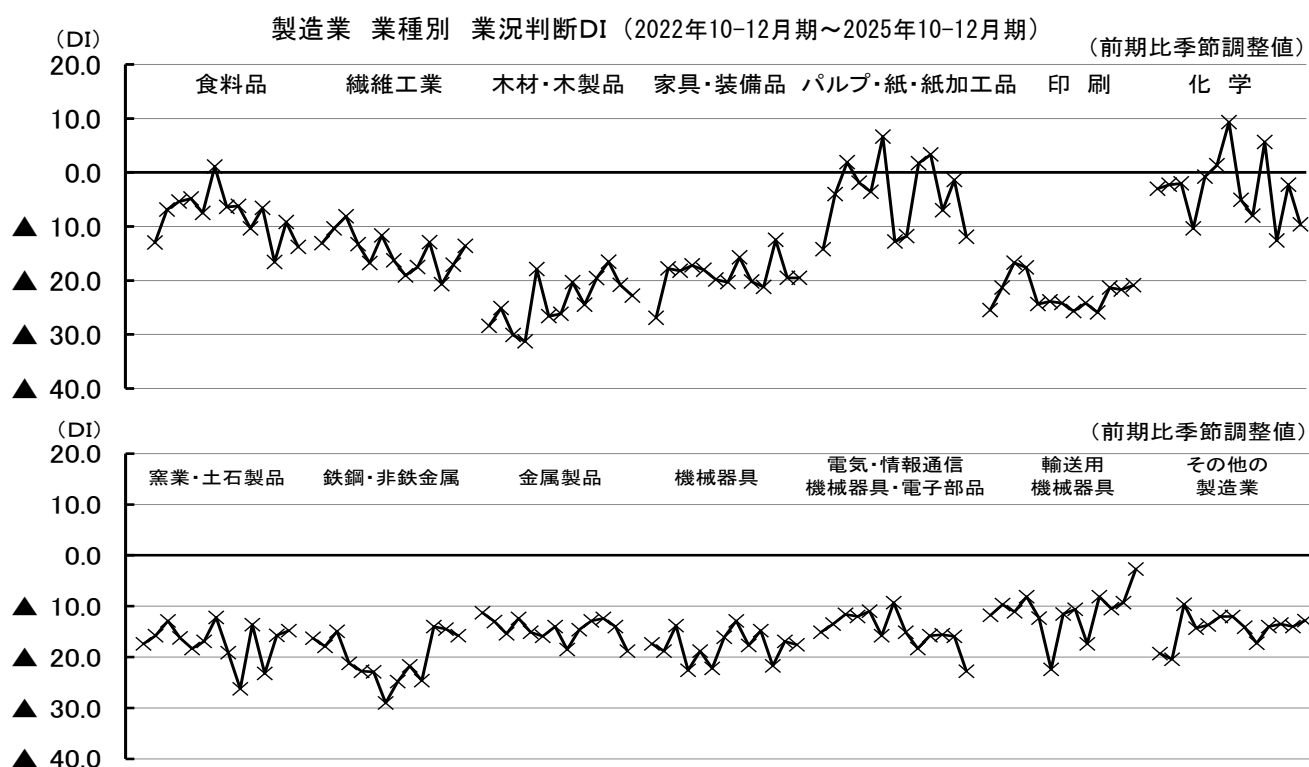
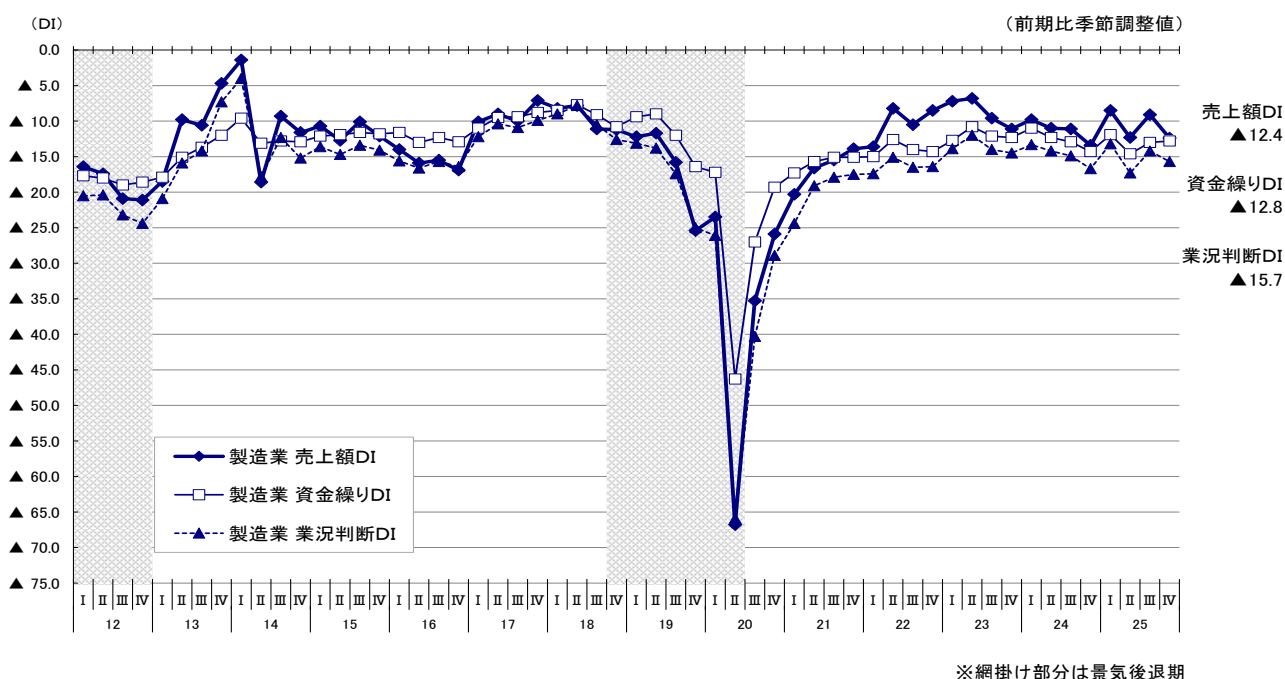
## 1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、▲15.7（前期▲14.2、前期差1.5ポイント減）と2期ぶりにマイナス幅が拡大した。

売上額DIは、▲12.4（前期▲9.1、前期差3.3ポイント減）とマイナス幅が拡大した。一方、資金繰りDIは、▲12.8（前期▲13.0、前期差0.2ポイント増）とマイナス幅がやや縮小した。

業況判断DIを14業種別に見ると、輸送用機械器具で▲2.7（前期差6.6ポイント増）、繊維工業で▲13.6（前期差3.5ポイント増）、その他の製造業で▲12.8（前期差1.2ポイント増）など5業種でマイナス幅が縮小した。

一方、パルプ・紙・紙加工品で▲11.9（前期差10.5ポイント減）、化学で▲9.6（前期差7.3ポイント減）、電気・情報通信機械器具・電子部品で▲22.8（前期差6.9ポイント減）など8業種でマイナス幅が拡大した。



## 2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で22.4%（前期差0.5ポイント増）とやや増加した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2025年10-12月期	21.6	17.5	17.5	14.3	22.9	19.5	32.1	22.8	29.5	24.4	26.2	28.7	38.3	16.3	22.4
2025年7-9月期	22.7	17.5	16.0	13.9	20.3	18.4	33.3	22.1	28.5	22.1	25.7	29.0	31.0	16.8	21.9
2025年4-6月期	21.7	14.9	13.6	9.5	20.9	13.6	31.0	18.3	23.0	23.3	23.5	29.4	28.6	17.9	20.2
2025年1-3月期	19.0	14.3	14.4	13.2	16.2	15.1	30.9	19.0	28.0	18.7	23.3	29.9	32.0	14.9	19.3
2024年10-12月期	22.6	17.6	15.7	14.3	22.1	17.1	25.0	18.7	28.9	22.5	24.7	27.1	34.3	16.5	21.4

## 3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位にあげられており、「需要の停滞」が2位、「人件費の増加」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (10-12月期)	原材料価格の上昇 (25.4%)	需要の停滞 (19.1%)	人件費の増加 (10.5%)	従業員の確保難 (9.7%)	生産設備の不足・老朽化 (9.5%)
前期 (7-9月期)	原材料価格の上昇 (24.3%)	需要の停滞 (19.5%)	人件費の増加 (10.5%)	生産設備の不足・老朽化 (9.2%)	従業員の確保難 (9.2%)

## 4. 製造業の地域別業況判断DI

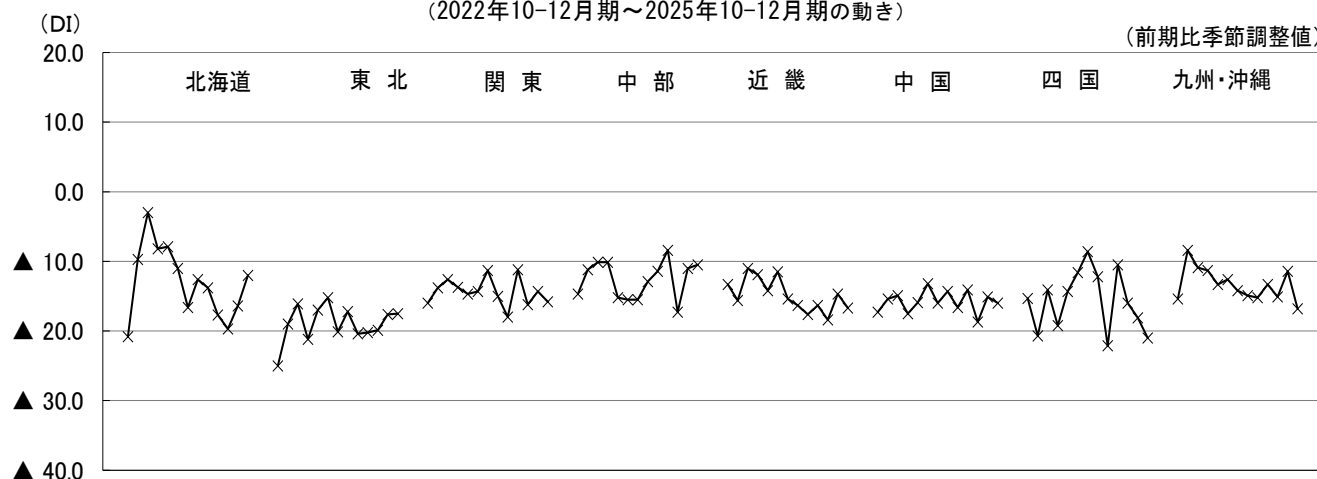
地域別に見ると、北海道、中部、東北でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄、四国、近畿、関東、中国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

製造業

(2022年10-12月期～2025年10-12月期の動き)

(前期比季節調整値)



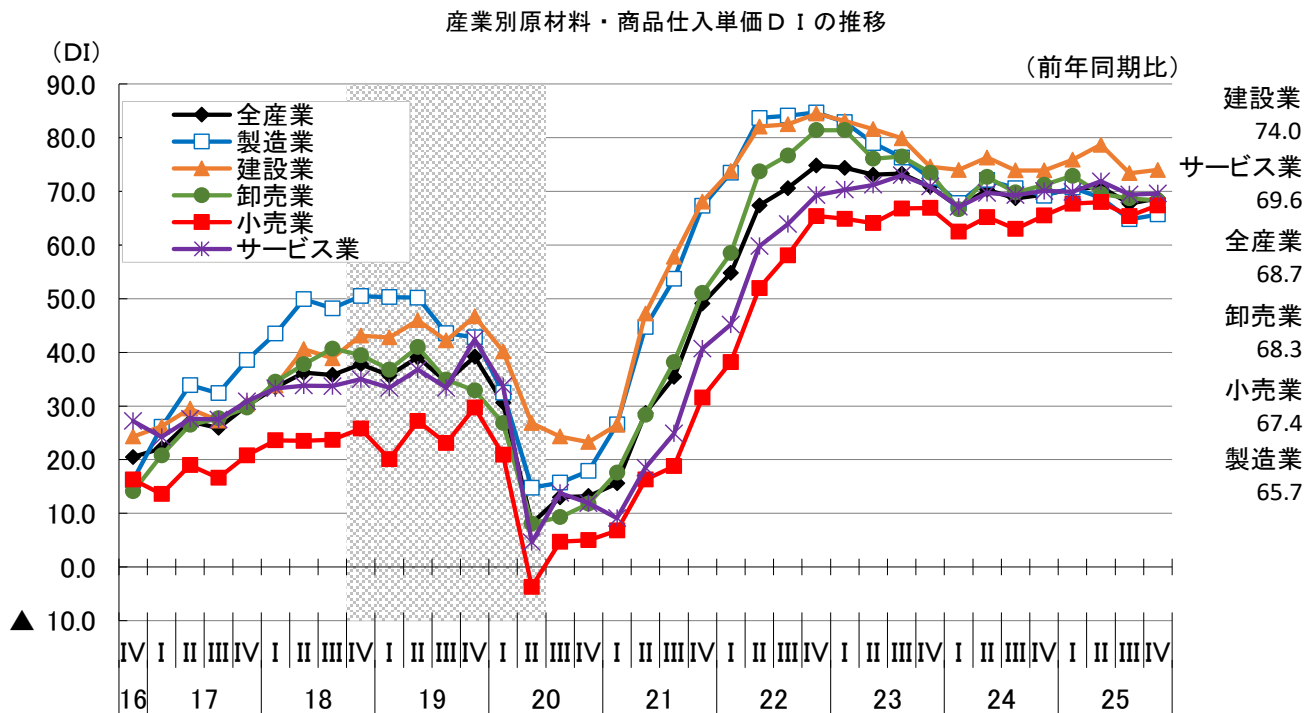
(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI＝前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

## 5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、65.7（前期64.8、前期差0.9ポイント増）と上昇し、3期ぶりにプラス幅がやや拡大した。



### 〔調査対象企業のコメント〕

- ・ 物価高と人件費の上昇、資材の値上がりにより利幅が狭くなった。[道北・オホーツク 食料品]
- ・ 木材製造業の販売対象を一般住宅だけでなく、より広範囲での販売にいかにか早く変えられるかがポイントになると考えるが、その転換時を見つけにくい業種である。業界がどんどん小さくなっていっている事が心配。[青森 木材・木製品]
- ・ アメリカ関税の影響、EV移行の停滞等から生産する金属ばね等、発注数量やタイミングの落差が大きい。その為、内示や予定、先をある程度見通しできる情報がギリギリまで入らなく、材料や資材の発注や手配が遅れ納期が厳しい。[長野 輸送用機械器具]
- ・ 人件費を含め全てにわたる価格上昇が収益を圧迫している。サプライチェーンの工場間の製品価格は硬直化しており、インフレ志向の世情に困惑している。[愛知 化学]
- ・ 各客先の受注計画が立てにくい。受注量の増減が大きく、短納期対応が多い。そのため生産効率が悪い。[滋賀 金属製品]
- ・ 発注品目および数量、新規引き合い・見積り依頼の減少。短納期による受注機会の消失と作業効率の悪化。[島根 機械器具]
- ・ 消費が低迷している。さらに原材料の上昇、最低賃金の上昇とマイナス要素が続いており非常に厳しい。[徳島 パルプ・紙・紙加工品]
- ・ 公共事業の受注の増加に伴い、好転に転じている。[福岡 その他の製造業]

### 〔調査要領〕

- (1) 調査時点：2025年11月15日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,838のうち有効回答17,901（有効回答率95.0%）